

長岡市立上組小学校

1 学力の実態

(1) 課題や問題点（児童アンケートから）

- 全体として、各学年とも家庭学習の時間は増えてきてはいるが、個別に見ると、家庭学習の習慣が身に付いていない子が各学年に見られる。

＜家庭学習の時間が10分以内の子ども＞

年度	第1回アンケート	第2回アンケート
平成17年度	18%	15%
平成18年度	13%	10%
平成19年度	16%	14%

- 基礎学力が十分に身に付いていない子どもが各学年でまだ見られる。（漢字の書きとり、基本的な計算など）
- 学級の中で、学習に集中できなかつたり、著しく時間がかかたりして、特別支援が必要な子どもが各学年で見受けられる。
- 学習の準備がいつも十分でない子どもがいる。
- 話し方、聞き方のルールが確立されていない学級が見られる。
- ノートの書き方について学年内や教師間で統一がとれていない面がある。

(2) 改善策 学力向上策

- 各学年での具体的めあてを決めた取組（例；学年×10分）
- 発達段階に応じた課題
 - ・ 下学年ではほぼ毎日共通課題，上学年は共通課題＋自主学習を課している。
- 家庭学習カードの作成と活用
 - ・ 上学年では毎日，担任がチェックし，コメントを付けて励まし，賞賛しながら取り組む。
- 家庭への呼びかけと啓発
 - ・ 学年，学級便りや個別教育相談などを通じて家庭への協力や具体的な手立てを講じていく。
- 学年での漢字計算テストの実施
 - ・ 家庭学習とも関連させ，一人一人にめあてを持たせ，定着するまで繰り返し実施する。
- 少人数指導・習熟度別指導の計画的な実施

- ・今年度は4・5年生の算数で少人数指導を実施している。
- ・他の学年でも領域によっては習熟度別等で学習集団を編成している。
- 特別支援教育の充実
 - ・特別支援教育推進委員会を定期的に関き、個別の支援計画を立案したり、具体的な入教計画を立てたりしていく。
- 『学びの基本』の提案と全職員での共通理解
 - ・「学習の準備」「聞く」「話す」「読む」「書く」についての具体的な指導例を提示する。
 - ・各学年で発達段階を考慮し、どこまで指導するかを決める。
 - ・“その場で” “具体的に” “繰り返し” 指導していくことで定着を図っていく。

2 学力向上に向けた取組

(1) 改善調査の評価

国語では、自分の考えを理由付け、相手に伝わるように表現する力が足りない。作文など、資料を書き写しただけで、自分の考えや具体例などの記述がない。

算数でも、式や答えは合っているが、途中の考え方を言葉で説明できていない。論拠が記述されていない誤答が目立った。

国語でも算数でも資料やグラフの見方が身に付いていないための誤答が多い。知識を活用する力、応用力を子どもたちに身に付けさせることが当校の課題として挙げられる。

子どもたちが互いに考えを出し合い高め合う指導過程について研究を深める。

当校では個人の設定した研究課題に沿って行う個人追究型の校内研修を行っているが、教員評価とも関係付け、学校課題解決に向け、教職員が互いに学び合う場とする。知識や技能を共有し、広げ深めるとともに、子どもたちが集団解決できる場の効果的な設定の仕方等、共通の課題解決、テーマ達成に向けても意見を交わしていく。

(2) 校内研修の概要

学 年	教 科	研 修 テ ー マ	授業公開
3 年 生	算 数	筋道を立てて考える能力をのばし、算数を楽しみながら取り組む子どもを育てる	6 / 19
3 年 生	国 語	読みを深め合うための支援のあり方	9 / 5
1 年 生	算 数	自分の考えを絵や文で表現し、認め合う支援の工夫	10 / 15
1 年 生	国 語	自分の思いや考えを伝える力を育む指導の工夫	11 / 28
2 年 生	算 数	活用力を育てる算数授業の工夫	12 / 8